

います。

坂爪茂雄君 今日では早退させていただきます。

阿部勝子君 中條さん卓話お待ちしております。聞かせて下さい。

佐藤義英君 満チャンよりのニギリ分です!!

山崎勲君

卓 話： 第2560地区第4分区AG 中條 耕二会員



皆さん、今晚わ

昔、三条クラブに在籍した当時、誰が考えたか「一日会長・一日幹事」という制度がありました。年度内の例会の1日を「会長を受けるなら辞める」という会長を引き受けない人を、1日だけ会長にムリやりさせたのであります。丸山豊造さんというトップ工業という作業工具メーカーの社長が「一日会長」になられたことがあります。幹事には丸山さんの命令で鈴木宗資さん初代幹事がその日の一日幹事を引き受け、ロータリーのリーダーシップを発揮されました。会長挨拶は、パチンコの趣味のこと、ジャイアント馬場選手から象牙のパイプの話だったと記憶しております。俺は小学校もろくろく行っていないがと自分のことを正直にお話される方でありました。新聞を逆に読んでいたとか、大変面白い、ユニークな人でしたが、お酒は多く飲まれなかったように思い出しております。長い間の社会への奉仕・産業界のご功績で勲五等を授与され、天皇陛下に拝謁されたこと等、金子左武郎さんを非常に尊敬されていた方でありました。明治生まれの三条ロータリークラブの大先達であろうかと思っております。

その約40年前の三条ロータリークラブ発足から、ロータリーが大きく変化しました。私は3つ取り上げてみたいと思います。

「1つ目は、出席について強制しなくなったことであります。」

何回休んでも、あまり罪も罰の意識もうすれ、しかも各クラブの競争意識もなくなり、会員一人一人に会員の義務と言わなくなったことです。これは寂しいことでもあります、ロータリアンの精神に大きな変化を与えました。

「2つ目は、職業奉仕が1業種1人から5人迄認めるという、今迄のロータリーの良さを打ち破る大変化であります。」

商売敵を5人迄認めるに至っては、日本のロータリークラブでは全く考えていなかったことであります。

「3つ目は、ガバナーに替わって、AG即ちアシスタントガバナーがガバナー公式訪問前に各クラブのクラブ協議会に出席し、ガバナーに替わって主宰し、指導しなさいということでもあります。」

この各クラブ協議会の指導こそがガバナーの最大の重要な任務であったはずのことが、いとも簡単にAGにゆだねられ、その結果を報告しろとのリーダーシッププランの採用であります。全国のクラブの約2300クラブある内に、70%がこれに準じてAGが活躍されているのであります。

私の任期はあと2ヶ月となりましたが、この3点は私にとって、ロータリーの真髄は出席にありとの言葉から全く納得のいかない所でありました。しかしロータリーは変わったのだと自分自身に言い聞かせて、あまりこのことは考えないことにしようと思っております。お陰様でIMも無事、皆様のご協力で終わり、公式訪問も一つ二つの問題点はあったが、まあまあで終わりそうとロータリーの多忙感から解放されていた所に、去る4月20日（土）第4回地区運営会議という野沢ガバナー主催の会議の突然の招集がありました。たいしたことではなく、締めくくりの会であろうかと想像しておりました所、大変な会議となり、延々3時間に及ぶ質疑応答ありのややもすると大変難しい論議の会となったわけであります。

その時の運営会議についての内容をこれからお話しさせていただきます。

この趣旨については「知的障害者の高齢化に伴う養護及び介護の課題」並びに「保護者等の高齢化による親無き後の懸案」を解消するとともに、知的障害者厚生施設入所者が高齢を原因とする寝たきりになっても継続して長期にわたり安心して快適な施設生活ができること、並びに在宅高齢知的障害者の施設入所の選択を可能にし、知的障害者及びその関係者を含めて将来に悩むことなく安心した日常生活が送れることを目的とし、知的障害者厚生施設と特別養護老人ホームの機能をあわせ持った、「高齢知的障害者特別厚生施設」をつくろうとのご提案でありました。

結論から申し上げますと、野沢ガバナーの要望はあと2ヶ月の任期の中で第2560地区2500名の合意のご賛同を頂きたいことが第一点であります。このためには第1分区から第7分区迄の7人のAGがこの人道的支援プログラム達成のために正式に各クラブを訪問して説明し、ご了解を得て欲しい、野沢ガバナー個人がやるのではなく、第2560地区のロータリーの活動としてやりたいとのことであります。ご承知のとおりロータリーは継続事業は一切無く、単年度に終わらせるのがロータリーの活動の原則であります。しかしながらこのプロジェクトは平成15年、16年にまたがり、佐野ガバナー年度、原ガバナー年度にまたがります。この事について特に野沢ガバナーからご発言があり、今年8月に閉鎖するガバナー事務所スタッフがこのプロジェクトを引き継ぎ、セコム上信越の中に事務所を設けるとのことであります。従いまして、佐野ガバナー年度のロータリー活動には一切ご迷惑をおかけしないとのご発言をめぐり、活発な議論展開となりましたが、各AGの協力発言もあり、プロジェクトチームとしての名前だけは引継、事業の一切は野沢現ガバナーが全責任を持つことに結論づけられて全員の賛同を得ることになったわけであります。

私、中條AGとしましては、一人一人意見を求められる中で総論賛成・各論反対であろうが、全国でも初めての大事業であり、野沢ガバナーの実行の強い意志とロータリーに資金的、精神的なご迷惑をかけないと言質を貴重なご発言として受け止め賛成し、私の担当の第4分区10クラブ公式